Z news

新年のご挨拶

（社）日本動物学会会長　浅島　誠

新年，明けましておめでとうございます．

今年は日本動物学会の会員お一人お一人にとっても，日本動物学会にとっても良い年であることを期待しています．

日本動物学会は長い歴史と伝統，そして何よりも日本および世界の動物科学の発展に大きく貢献してきたし，又，現在も寄与していると思っています．しかしながら，私は今年で会長として４年目を迎えますが，その間にいろいろな出来事が国内外で起こり，日本動物学会も大きくその影響を受けていることを会員の皆様方に報告し，そのもつ意味の大きさを共有したく思っています．思いつくままに書かせていただきます．

その一つは，国立大学は法人化され，各大学をとりまく状況は法人化後，特に厳しくなってきています．運営交付金の減少は教育や教員の在り方や研究の質まで変化させています．それによって，動物学のような基礎学問はとかくやりにくくなっているのが現状です．「科学技術立国」と叫ばれながらも，実際には基礎科学をしかも，長期間に渡って継続することが難しくなっている現状を考える時，どのように学会として，又，お一人お一人が立ち向かわれていくのかが今，大きく問われていると思うのです．

その二に，日本動物学会は世界に誇れる「Zoological Science」を現在及び歴代の編集主幹や編集委員のお陰で発展，充実させてきています．ここにきて，「Zoological Science」も含めて，世界の学術誌をどのように発信し，展開していくかという大きな岐路に今，立たされています．日本動物学会はこのような流れをいち早く察知し，UniBio Press を立ち上げましたが，これが今後どのように発展し，世界のステージの中に入っていけるかも大きな課題です．一方，国内外を問わず，学術誌のオープン・アクセス化，グリーン・ジャーナル化など，大きなうねりとなって押し寄せています．日本の学術誌に対して，日本政府も近いうちにその在り方そのものまで見直すことを始めています．それが日本の学問や学術誌の発展に繋がるかといえば，かなり困難を伴うことが予想されます．各大学や研究所においても，学術誌をどのように取り扱うのか，それは私達の学問そのものにも直接，大きな影響を及ぼします．この困難をどのように乗り切るかについても鋭意努力をしていますが，これを克服する最も良い道は各人の立派で優れた研究内容を「Zoological Science」に投稿し，それを誇りに思って協力して育てていくことだと思っています．是非，良い論文を「Zoological Science」に投稿をお願いしたく思っています．

その三は日本動物学会の国内外における位置づけです．昨年までは日本動物学会は日本学術会議との関係で動物科学研究連絡委員会（研連）を主催し，その中心的役割を果たしてきましたが，昨年10月初旬の日本学術会議の大改革に伴って，今までの研連がなくなり，日本学術会議は日本の学問分野を30の分野別委員会として区別し，生物系は「基礎生物学分野」と「応用生物学分野」の２つに分けられました．このような中で，日本動物学会も加わっている「生物科学学会連合」の重さも増してきました．この「生物科学学会連合」を中心として，ボトムアップのシステムをつくり，常に学術会議の上記の２つの委員会に意見を述べていくことが，これから重要になってきます．私達の動物学会は「基礎生物学分野」に入っていますが，大きくは生命系（２部）に入っており，ここには医学，農学，薬学，歯学，生物学等も全て入っていますので，その中で基礎生物学の重要性をきちんと述べ，発信していけるかどうかです．また，各学会は国際対応を求められていますので，今，国際動物学会に入会する手続きをとっているところです．２年後のフランスでの国際動物学会では，きちんとしてビジョンと status をもって入っていきたいと思っています．ただ，昨年の総会でも述べましたように，この国際動物学会は長い歴史をもっているにも拘わらず，あまり活動が活発でないのと，中身について分からない部分もあるので充分に良く吟味して対応しているところです．今年の理事会，評議員会，総会までにはどのような方向で進めるかについて，会員の皆様にお諮りしたいと思っています．

その四は，これが最も大切なことかもしれませんが，日本動物学会のスタンス，在り方，活動そのものです．今年の秋には日本動物学会編「21世紀の動物科学シリーズ」11巻が刊行されることになっています．日本動物学

会の年次大会，高校生の学会でのポスター発表などは年ごとに充実さを増してきています．若い研究者の人達も回帰して非常に活性化に繋がっています．又，支部会や支部大会も各々，活発に行われており，その拡がりこそがこの動物学会を支えていると思っています．

一方，「ガイアリスト」の作成や「動物学会誌のアーカイブ化」，「臨海・臨湖研究所」の在り方，今後の学会運営と財政基盤など，今なすべきことは沢山あります．その中で「ガイアリスト」を中心とした生物の多様性を早目に本格化させ，目に見える形にする必要があります．

新年の挨拶にあたって，会員の皆様方に現状の大筋を知っていただき，次世代にも動物学会および動物科学が更に大きく発展していくために会員の皆さんに是非，御協力と御理解をいただきたいと思っています．今日ほど生物学が必要とされていることはありません．日本動物学会が生物の多様性と進化，それに基づくナチュラル・ヒストリー的な生物の見方，生物の構造と機能の研究，生物のもつ現象の面白さと奥深さを五感を通して研究し，教育していくことは今，私達一人一人に求められています．生物学を大切にして育て，継続していく力をお互いに確認し，協力していくことをお願いいたします．

そして，会員のお一人お一人にとっても日本動物学会にとっても，今年が良い年であることを祈念して，私の新年の挨拶にしたいと思います．

平成17年度第４回理事会議事録

日　時：10月５日(水）13：00－14：00
場　所：筑波大学総合研究棟 A205
出　席：出席19名（委任状含む）欠席１名，事務局長

岡庶務理事より，出席者19名（委任状含む）で定足数を満たしており，定款27条２項の規定により理事会が成立していることが報告された．浅島会長により開会宣言と開会の挨拶が行なわれた．浅島会長が議長を務め，議事録署名人として岡良隆庶務幹事，寺北明久会計幹事が推薦され了承された．

報告事項

１．会長報告

浅島会長より，大会準備委員会への謝辞が述べられた．続いて，日本学術会議が第20期から３部制（人文系，生命科学系，理工系）に変更され，動物学会は生命科学系に入ったこと，浅島会長が学術会議副会長に選出されたこと，国際動物学会より発刊予定と連絡のあった“International Journal of Zoological Sciences”（Blackwell 社）というジャーナル名が“Zoological Science”と紛らわしいと本学会から国際動物学会に抗議したのに対して先方は現在誌名を変更する方向で検討中であること，が報告された．

２．庶務報告

岡庶務幹事より，Zoological Science（ZS）誌がJST 電子アーカイブ事業に採択され，動物学雑誌，動物学彙報の英文アブストラクトを中心にデータベース化推進の予定であること，ZS 誌の電子投稿査読システムが開始されたこと，藤井賞の新しい賞状を作成したこと，七田会員から依頼のあった光生物学協会への推薦について，七田芳則（京都大学），河村悟（大阪大），津田基之（兵庫県立大），徳永史生（大阪大），蟻川謙太郎（横浜市立大），寺北明久（京都大）の各会員が決定したこと，が報告された．

３．会計報告

寺北会計幹事より，故川口四郎名誉会員の御遺族より寄付があったこと，および，今年度の科研費獲得状況について報告があった．

４．ZS 編集委員会報告

長濱編集長より，2005年１月より編集委員を交代し，現在 ZS 第22巻を順調に刊行中であること，事務局内に ZS 編集事務局を作り電子投稿・査読システムとして ScholarOne 社の ManuscriptCentral を採用して電子投稿・査読システムの本格稼動を６月に開始したこと，ZS 誌の印刷フォーマット変更を検討中であること，本大会で開催される編集会議が公開で行われること，が報告された．

５．動物学推進将来計画委員会報告

阿形将来計画委員長より，委員会第７期が発足し，本日に第２回目の会合をもつこと，現在，学会 Web プラットフォームのリニューアルやデータベースの構築について議論していることが報告された．

６．広報委員会報告

大島広報委員長より，レタープレス社に外注して学会ホームページのリニューアルを図っていること，現在新ページを仮公開中であること，が報告された．

７．教育担当理事報告

松田教育担当理事より，「国際生物学オリンピック」について報告があった（審議事項参照）．

8．図書担当理事報告
　小泉図書担当理事より，動物学会出版事業として培風館より「21世紀の動物科学」というシリーズで全11巻を出版する予定であり，来年中には第１巻が出版予定であることが報告された．

9．基盤研究担当理事報告
　豊田基盤研究担当理事より，つくば大会において「会員のための就職活動支援」という企画を行うことが報告された．

10．ガイアリスト担当理事報告
　馬渡ガイアリスト担当理事より，本年度の科学研究費に学会として応募することが報告された．

11．研究用動物提供プロジェクト委員会報告
　後藤委員長より，現在当プロジェクトへの参加者が非常に少ないので，共同研究にとらわれず，動物のみの提供，教育面での活用も検討すべきではないかという提言があった．

12．歴史資料保存委員会報告
　溝口歴史資料保存委員長より，Zootree を中心としたデータベースの活用について報告があった．

13．平成17年度大会準備状況報告
　高橋三保子評議員（筑波大学）より，現在920名程度の大会参加登録があること，今回は会場費が高いのでできるだけ業者を使わずに大会運営していること，参加が web 登録となり会費納入率が下がっているので今後対応の必要があること，27演題が動物学ひろばとして予定され，つくば科学フェスティバルと共催で開催されること，が報告された．

14．平成18年度大会準備状況報告
　松野評議員（島根大学）より，島根大学松江キャンパスにおいて平成18年９月21－24日の４日間開催される予定であることが報告された．

15．平成19年度大会準備状況報告
　山本評議員（東北大学）より，東北支部で担当することとなり，弘前大学で９月に開催の予定であることが報告された．

16．平成20年度大会開催地について
　九州支部で担当することを了承した．

17．研究評価における IF の扱いについて
　永井事務局長より，研究評価における IF の扱いについて文科省に見直しの動きがあること，IF を公表しているトムソン社の宮入暢子氏より，IF と ZS の現状について生物科学ニュースに寄稿していただいたこと，が報告された．

審議事項

第１号議案　平成18年度事業計画案について
　岡庶務理事より席上配布資料に基づき以下の平成18年度事業計画案が説明された．

１．学術集会の開催
　第77回大会（島根大学）
２．全国７支部による支部大会およびシンポジウムの開催
３．動物学の普及活動
　⑴　学会誌，図書の刊行
　　Zoological Science23巻，生物科学ニュースの発行
　⑵　UniBio Press からの電子ジャーナル販売促進
４．動物学研究業績の表彰と研究の奨励
　⑴　日本動物学会賞・奨励賞
　⑵　Zoological Science Award
　⑶　藤井賞
　⑷　日本動物学会 OM 賞
　⑸　若手研究者国際会議出席補助金（江上基金・安増基金）
５．生物科学学会連合の事業推進
６．研究及び調査
　⑴　ガイアリスト21計画の推進
　⑵　将来の動物学の在り方に関する調査
　⑶　図書出版「21世紀の動物科学」
　⑷　生物教育用語の検討
　⑸　研究用動物提供プロジェクト
　⑹　実験動物取り扱いに関する指針の検討

　これらは提出議案どおり承認された．

第２号議案　中間決算書について
　寺北会計理事より平成17年１月１日～６月30日の中間収支報告があり，了承された．

第３号議案　平成18年度予算案について
　寺北会計理事より，席上配布資料に基づき平成18年度予算の提案があり，未確定の科研費学術誌刊行補助金を収入として計上していること，ZS 事務局職員を増員したため管理費が昨年度より増えていること，男女共同参画委員会の予算を３月の総会で補正予算として計上すること，の補足説明があった．これらは原案通り了承された．

第４号議案　安増基金について

浅島会長より，現在残金が90万円であり，後2-3年しか継続できないこと，嶋田運営委員長より辞意があったことから，委員の改選を行いたい旨報告があった．浅島会長より次期会員として佐藤矩行，赤坂甲治，安増茂樹，稲葉一男会員の推薦があり，承認された．

第５号議案　川口会員遺族からの寄付について

浅島会長より，故川口四郎会員のご遺族より1000万円のご寄付があったこと，今回ご遺族に感謝状を贈呈することが報告され，この寄付の運用方法については，提案を募集し継続審議することが承認された．

第６号議案　生物科学連合の強化について

浅島会長より，今後学術会議の対応先として生物科学学会連合をより強化し推進する旨の報告があり，承認された．

第７号議案　国際動物学会への対応について

浅島会長より，学術会議から学会の国際対応に関する問い合わせがあり，第３回大会（2008年　於ニース）より正式に国際動物学会に参加したい旨の報告があり，了承された．

第８号議案　国際生物学オリンピックについて

浅島会長より，本年度７月に北京で開かれた第16回大会に日本から参加したことが報告され，動物学会としては，費用を伴わないことを条件に個人としてボランティア支援していくが，今後の動物学会としての対応方針を決めたい旨，提案があった．

第９号議案　学術誌データベースへの応募について

馬渡理事より，学術誌データベース化のために科研費に応募したい旨提案があり，了承された．

その他

○寺北会計理事より，会員のデータベースを Card から FileMaker に移行する事業を進めており，データベース構築の外注費用42万円を平成17年度予算に計上することが提案され，了承された．

○今後の学会のあり方，基礎生物学の危機的な現状，などに関する意見が交換された．

以上

定款30条の規定により，議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名する．

平成17年10月５日

議長　浅島　誠
議事録署名人　岡　良隆
議事録署名人　寺北明久

（Z－4）

平成17年度第３回評議員会議事録

日　時：10月５日(水）14：10−16：30
場　所：筑波大学総合研究棟 A111
出　席：34名（委任状含む）会長，副会長，庶務担当理事，会計担当理事，事務局長

岡庶務理事より出席者34名（委任状含む）で定足数を満たしており，定款27条２項に基き評議員会が成立していることが報告された．浅島会長により開会宣言と開会の挨拶が行なわれた．上村慎治評議員が議長に選出された．上村評議員会議長により，議事録署名人として岡良隆庶務幹事，寺北明久会計幹事が推薦され了承された．

議事に先立ち，高橋三保子大会長の挨拶が行われた．

報告事項

１．会長報告

浅島会長より，日本学術会議が第20期から３部制（人文系，生命科学系，理工系）に変更され，動物学会は生命科学系に入ったこと，浅島会長が学術会議副会長に選出されたこと，国際動物学会より発刊予定と連絡のあった“International Journal of Zoological Sciences”（Blackwell 社）というジャーナル名が“Zoological Science”と紛らわしいと本学会から国際動物学会に抗議したのに対して先方は現在誌名を変更する方向で検討中であること，が報告された．

２．庶務報告

岡庶務幹事より，Zoological Science（ZS）誌が JST 電子アーカイブ事業に採択され，動物学雑誌，動物学彙報の英文アブストラクトを中心にデータベース化推進の予定であること，ZS 誌の電子投稿査読システムが開始されたこと，藤井賞の新しい賞状を作成したこと，七田会員から依頼のあった光生物学協会への推薦について，七田芳則（京都大学），河村悟（大阪大），津田基之（兵庫県立大），徳永史生（大阪大），蟻川謙太郎（横浜市立大），寺北明久（京都大），各会員が決定したこと，が報告された．

３．会計報告

寺北会計幹事より，故川口四郎名誉会員の御遺族より寄付があったこと，および，今年度の科研費獲得状況について報告があった．

４．ZS 編集委員会報告

長濱編集長より，2005年１月より編集委員を交代し，

現在 ZS 第22巻を順調に刊行中であること，事務局内に ZS 編集事務局を作り電子投稿・査読システムとして ScholarOne 社の Manuscript Central を採用して電子投稿・査読システムの本格稼動を６月に開始したこと，ZS 誌の印刷フォーマット変更を検討中であること，今学会で開催される編集会議が公開で行われること，が報告された．

５．動物学推進将来計画委員会報告

阿形将来計画委員長より，委員会第７期が発足し，今日が第２回であり，現在，学会 Web プラットフォームのリニューアルやデータベースの構築について議論していることが報告された．

６．広報委員会報告

大島広報委員長より，レタープレス社に外注して学会ホームページのリニューアルを図っていること，現在新ページを仮公開中であること，が報告された．

７．教育担当理事報告

松田教育担当理事より，「国際生物学オリンピック」について報告があった（審議事項参照）．

８．図書担当理事報告

小泉図書担当理事より，動物学会出版事業として培風館より「21世紀の動物科学」というシリーズで全11巻を出版する予定であり，来年中には第１巻が出版予定であることが報告された．

９．基盤研究担当理事報告

豊田基盤研究担当理事より，つくば大会において「会員のための就職活動支援」という企画を行うことが報告された．

10．ガイアリスト担当理事報告

馬渡ガイアリスト担当理事より，本年度の科学研究費に学会として応募することが報告された．

11．研究用動物提供プロジェクト委員会報告

後藤委員長より，現在当プロジェクトに参加者が非常に少ないので，共同研究にとらわれず，動物のみの提供，教育面での活用も検討すべきではないかという提言があった．

12．歴史資料保存委員会報告

溝口歴史資料保存委員長より，Zootree を中心としたデータベースの活用について報告があった．

13．平成17年度大会準備状況報告

高橋三保子評議員（筑波大学）より，現在920名程度の登録があること，今回は会場費が高いのでできるだけ業者を使わずに大会運営していること，参加が web 登録となり会費納入率が下がっているので今後対応の必要があること，27演題が動物学ひろばとして予定され，つくば科学フェスティバルと共催で開催されること，が報告された．

14．平成18年度大会準備状況報告

松野評議員（島根大学）より，島根大学松江キャンパスにおいて平成18年９月21－24日の４日間開催される予定であることが報告された．

15．平成19年度大会準備状況報告

山本評議員（東北大学）より，東北支部で担当することとなり，弘前大学で９月に開催の予定であることが報告された．

16．平成20年度大会開催地について

九州支部で担当することを了承した．

17．研究評価における IF の扱いについて

永井事務局長より，研究評価における IF の扱いについて文科省に見直しの動きがあること，IF を公表しているトムソン社の宮入暢子氏より，IF と ZS の現状について生物科学ニュースに寄稿していただいたこと，が報告された．

審議事項

第１号議案　平成18年度事業計画案について

岡庶務理事より，席上配布資料に基づき以下の平成18年度事業計画案が説明された．

１．学術集会の開催

第77回大会（島根大学）

２．全国７支部による支部大会およびシンポジウムの開催

３．動物学の普及活動

⑴　学会誌，図書の刊行

Zoological Science 23巻，生物科学ニュースの発行

⑵　UniBio Press からの電子ジャーナル販売促進

４．動物学研究業績の表彰と研究の奨励

⑴　日本動物学会賞・奨励賞

⑵　Zoological Science Award

⑶　藤井賞

⑷　日本動物学会 OM 賞

⑸　若手研究者国際会議出席補助金（江上基金・安増基金）

５．生物科学学会連合の事業推進

６．研究及び調査

⑴ ガイアリスト21計画の推進
⑵ 将来の動物学の在り方に関する調査
⑶ 図書出版 「21世紀の動物科学」
⑷ 生物教育用語の検討
⑸ 研究用動物提供プロジェクト
⑹ 実験動物取り扱いに関する指針の検討

これらは提出議案どおり承認された.

第２号議案 中間決算書について

寺北会計理事より平成17年１月１日～６月30日の中間収支報告があり，了承された.

第３号議案 平成18年度予算案について

寺北会計理事より，席上配布資料に基づき平成18年度予算の提案があり，未確定の科研費学術誌刊行補助金を収入として計上していること，ZS 事務局職員を増員したため管理費が昨年度より増えていること，男女共同参画委員会の予算を３月の総会で補正予算として計上すること，の補足説明があった．これは原案通り了承された.

第４号議案 安増基金について

浅島会長より，現在残金が90万円であり，後２－３年しか継続できないこと，嶋田運営委員長より辞意があったことから，委員の改選を行いたい旨報告があった．浅島会長より次期会員として佐藤矩行，赤坂甲治，安増茂樹，稲葉一男会員の推薦があり，承認された.

第５号議案 川口会員遺族からの寄付について

浅島会長より，故川口四郎名誉会員のご遺族より1000万円のご寄付があったこと，今回ご遺族に感謝状を贈呈することが報告され，この寄付の運用方法については，提案を募集し継続審議することが承認された.

第６号議案 平成18年度学会賞等選考委員の選出について

評議員間の互選の結果，以下の者が選出された.

形態・細胞	真行寺千佳子（次点：高橋三保子）
生理	蟻川謙太郎（次点：岡 良隆）
発生	阿形 清和（次点：八杉貞雄）
内分泌	長濱 嘉孝（次点：菊山栄，笹山雄一）
生化学・分子生物学	道端 齋（次点：七田芳則）
生態・行動	今福 道夫（次点：沼田英治）
分類・系統・遺伝・進化	西川 輝昭（次点：片倉晴雄）

第７号議案 生物科学連合の強化について

浅島会長より，学術会議の対応先として，今後生物科学学会連合があたるため，より強化を推し進める旨の報告があり，承認された.

第８号議案 国際動物学会への対応について

浅島会長より，学術会議から学会の国際対応に関する問い合わせがあり，第３回大会（2008年 於ニース）より正式に国際動物学会に参加したい旨の報告があり，了承された.

第９号議案 国際生物学オリンピックについて

浅島会長より，本年度７月に北京で開かれた第16回大会に日本から参加したことが報告され，動物学会としては，費用を伴わないことを条件に個人としてボランティア支援していくが，今後の動物学会としての対応方針を決めたい旨，提案があった.

第10号議案 学術誌データベースへの応募について

馬渡理事より，学術誌データベース化のために科研費に応募したい旨提案があり，了承された.

その他

○寺北会計理事より，会員のデータベースを Card から FileMaker に移行する事業を進めており，データベース構築の外注費用42万円を平成17年度予算計上することが提案され，了承された.

○今後の学会のあり方，基礎生物学の危機的な現状，などに関する意見が交換された.

以上

定款30条の規定により，議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名する.

平成17年10月５日

議長 上村慎治
議事録署名人 岡 良隆
議事録署名人 寺北明久

平成17年度第２回総会議事録

日 時：10月７日(金) 15：30－16：30
場 所：つくば国際会議場 S 会場大ホール
出 席：代議員56名（含委任状），会長，副会長，庶務担当理事，会計担当理事，事務局長

開会

岡良隆庶務理事により，定款第26条に基く定足数を満たしている事が報告された.

浅島誠会長により平成17年度第２回総会の開会宣言が

行われた．

浅島会長が議長となり，総会の進行を行う司会に沼田治大会準備委員長（筑波大学）が推薦され承認された．沼田会員の挨拶があった．

議事録署名人の選出

司会より，議事録署名人として岡良隆庶務理事と寺北明久会計理事が推薦され承認された．

大会委員長挨拶

高橋三保子大会長（筑波大学）の挨拶が行われた．

会長挨拶

浅島誠会長の挨拶が行われた．

次期大会長挨拶

松野あきら次期大会長（島根大学）の挨拶が行われた．

報告事項

浅島誠会長より大会準備委員会および関係各位に謝意が表明され，続いて以下の報告が行われた．

○故川口四郎名誉会員より1000万円の寄付があった．

○「21世紀の動物科学」というシリーズ（全11巻）の本を来年から出版する運びとなった．

○学術会議の体制が変更となった．

○Zoological Science の電子投稿・査読システムが開始された．

○基礎生物学の発展に学会や学会員がよりいっそう関与してほしいという意見が評議員会であった．

審議事項

第１号議案　平成18年度事業計画について

岡庶務理事より以下の平成18年度事業計画案が説明された．

１．学術集会の開催

第77回大会（島根大学）

２．全国７支部による支部大会およびシンポジウムの開催

３．動物学の普及活動

⑴　学会誌，図書の刊行

Zoological Science23巻，生物科学ニュースの発行

⑵　UniBio Press からの電子ジャーナル販売促進

４．動物学研究業績の表彰と研究の奨励

⑴　日本動物学会賞・奨励賞

⑵　Zoological Science Award

⑶　藤井賞

⑷　日本動物学会 OM 賞

⑸　若手研究者国際会議出席補助金（江上基金・安増基金）

５．生物科学学会連合の事業推進

６．研究及び調査

⑴　ガイアリスト21計画の推進

⑵　将来の動物学の在り方に関する調査

⑶　図書出版　「21世紀の動物科学」

⑷　生物教育用語の検討

⑸　研究用動物提供プロジェクト

⑹　実験動物取り扱いに関する指針の検討

これらは提出議案どおり承認された．

第２号議案　平成17年度中間決算書について

寺北会計理事より平成17年１月１日～６月30日の中間収支報告があり，了承された．

第３号議案　平成18年度予算について

寺北会計理事より平成18年度予算の提案があり，未確定の科研費学術誌刊行補助金を収入として計上していること，ZS 事務局職員を増員したため管理費が昨年度より増えていること，男女共同参画委員会の予算を３月の総会で補正予算として計上すること，の補足説明があった．これらは原案通り了承された．

その他の審議事項

なし

その他

浅島会長より，今後の動物学会について以下のような発言があった．

○学術会議等について

日本学術会議が第20期から３部制（人文系，生命科学系，理工系）に変更され，動物学会は生命科学系に入った．浅島会長が学術会議の副会長に選出された．

○生物科学学会連合について

学術会議の対応先として，今後生物科学学会連合があたるため，より強化を推し進める．

○国際動物学会への対応について

学会の国際対応に関する学術会議からの問い合わせに対して，第３回国際動物学会大会（2008年ニース）からの正式参加を考えている．

○UniBio Press について

○国際生物学オリンピックについて

動物学会としては，費用を伴わないことを条件にボ

ランティア支援していく．

○ガイアリストについて

過去の「動物学雑誌」「動物学彙報」が電子化されるので，そのリソースを活用していく．

○大会について

来年から別枠で２時間程度の本部企画のシンポジウムを行う．

○Zoological Science について

電子投稿・査読システムが開始したが，ジャーナルの質向上のために，さらによい論文の投稿の依頼があった．

岡庶務理事より，学会 Web ページが現在改訂中で，仮公開されていること，Zoological Science が ScholarOne 社の ManuscriptCentral により電子投稿・査読できるようになった旨の発言があった．

以上

定款30条の規定により，議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名する．

平成17年10月７日

議長　　沼田　治
議事録署名人　岡　良隆
議事録署名人　寺北明久

大会だより

日本動物学会第77回大会のご案内（第１回）

第77回大会は，中国・四国支部が担当して松江市の島根大学松江キャンパスを主会場，2006年９月21日から24日まで開催されます．島根大会での発表形式は，原則として液晶プロジェクターによる口演です．

参加申し込み方法は，郵送とインターネットでの申し込みを併用します．詳しい申し込み方法等は第２回案内（３月号予定）にてお知らせします．

発表申し込み締め切り：2006年６月14日

（郵送，インターネットによる申し込みとも同日）

参 加 費：一般6,000円，学生5,000円

懇親会費：一般7,000円，学生5,000円

シンポジウム等の企画でご希望のものがありましたら2006年３月31日までに大会準備委員会までお知らせ下さい．

詳細ならびに演題募集要領は生物科学ニュース2006年３月号に掲載されます．また，動物学会ホームページでもお知らせします．多くの皆さんのご参加を心待ちにしております．

第77回大会準備委員会委員長　松野　煒
E-mail: matsuno@life.shimane-u.ac.jp
電話：0852-32-6430

第５回動物学会女性研究者懇談会報告

動物学会男女共同参画委員会
塔筋弘章（鹿児島大）
村山　司（東海大）
中辻孝子（東海大）

日本動物学会第76回大会１日目（2005年10月６日つくば国際会議場）に，第５回動物学会女性研究者懇談会が開催されました．今回は「男女共同参画社会への第一歩：キャリアの継続－多様なかたち－」というテーマのもとで，時間を２時間に拡大し，関連集会の枠を使って公開でおこなわれました．また，今回から動物学会男女共同参画委員会の主催となり，男女共同参画学協会連絡会の後援を受けました．

今回の懇談会では，動物学会男女共同参画委員の光永敬子さん（広島大）と向後晶子さん（藤田保健衛生大）が進行を担当しました．まず，浅島誠動物学会長が不在のため佐藤矩行副会長による開会の挨拶で始まり，次いで，中辻孝子動物学会男女共同参画委員長より，委員会の活動報告，昨年末から開設した研究者生活情報をサポートするメイリングリストなどの取り組みと現状が報告されました．その後，第５回動物学会女性研究者奨励 OM 賞受賞者に「キャリアを繋ぐよろこび」というテーマで，これまでの研究生活でのご苦労やその解決策，今後の抱負などを講演していただきました．今年度の受賞者は杉浦真由美さん（奈良女子大；「原生動物繊毛虫プレファリズマにおける有性生殖開始機構の解明」）と寺崎朝子さん（千葉大；「無脊椎動物 lasp family タンパク質の機能解析」）のお二人です．

最初にお話いただいた杉浦さんは，卒業研究以来，奈良女子大学で研究を続け学位取得，研究を継続する進路を選択されました．その間，いくつかの大きなターニングポイントがあったことを話されました．卒業研究選択時には指導者の「自分にしかできない研究というものも素敵ではないか」という言葉に大きな感銘を受け，それ

がその後の原点となったそうです．博士課程への進学時には，一般的に多くの女子学生が結婚への不利などを理由に家族から反対を受けているところ，修士論文の執筆を通じて研究成果を出せたことへの感動から，進学を決意されたそうです．今後はこれまでの研究をさらに追求していきたいと，力強く語って下さいました．ただ，今までは女性指導者のもと女子大で研究してきたこともあり，今後の結婚，出産への不安にも言及されました．

次にお話しされた寺崎さんは，企業に４年間勤務し，その後大学院へ進学，学位取得後２回のポスドクを経て現在の職に就かれました．進学前に結婚し，修士課程中に出産されたために，研究を続けていくことに対して配偶者やご両親などから反対されたことや就職活動でご苦労なさったことなどをお話になりました．寺崎さんにとって「キャリアを繋ぐ」=「自分の存在理由をかけた戦い」でもあったため，OM 賞受賞は，「自分が研究を続けても誰も喜ばないと思っていたのに“もっと頑張って”というメッセージをもらったみたい」で，その感激は大きかったそうです．また，ご自身の経験から，女性研究者の育成においては多様なロールモデル，女だからといって萎縮をさせない指導者，上司からの精神的支援（特に産前産後），過労を防ぐなどの研究環境の改善，多様な働き方，責任の明確化などが必要であることを述べられ，産休明け復帰制度の問題点にも触れられました．その上で，女性研究者の存在というものは科学に対する多様性を広げることであり，決して女性に対する人助けではないと語って下さいました．また，そういったことが定着しない理由のひとつに，既得権益や“姑根性”が邪魔をすることなどを挙げられ，科学のための人材活用が欠かせないと締めくくられました．

その後に「キャリアの継続－多様なかたち」というテーマで，延與（えんよ）秀人さん（理化学研究所）に「究極の三択，育児・業績・夫婦円満」，野口基子さん（静岡大）に「仕事の継続－多様なかたち」，菅原ますみさん（お茶の水女子大）に「親の就労と子どもの発達」のタイトルでそれぞれ講演をしていただきました．特に延與さんと菅原さんについては，動物学会会員以外の方へ初めての講演をお願いしました．

まず，延與さんはご夫婦とも同じ物理学の研究者で，また，小５，小３，保育園年長組の３人のお子さんがいらっしゃいます．ご自身の経験から，家庭内の男女共同参画の難しさを話して下さいました．ご夫妻で同じ学会に所属なさっていることもあり，夫が妻に替わって学会での委員会などを引き受けるなど，ある意味での役割分担をなさっているそうです．また出産，育児はいつでも始められるというのは大きな間違いで，妊娠，出産で子供１人につき２年つぶれるといったこともお話になっていました．さらには扶養手当，単身赴任手当などの問題点，所属なさっている物理学会の大会，勤務なさっている理化学研究所での託児所のことなどもお話しいただきました．また，ご自身も子供を連れて学会に参加するなど，広告塔としても努めていらっしゃるそうです．最後に，「キャリアと結婚は両立が可能であるが，子供が入ると難しい．スーパーレディに頼る時代は終わらなければならない．理系のお母さんを増やすことが，子供の理科離れも防ぐだろう」と締めくくられました．

野口さんは学園紛争が吹き荒れた時代に静岡大学に就職，その後，静岡大学一筋に歩んでこられました．その間に１年間滞在した米国でマウスのテラトーマについての研究が転機となり，そのままライフワークとなったそうです．出産，子育て，自分たちで作った大学内の共同保育所の維持についてのご苦労をお話になりました．しかし，共同保育所では親たちの苦労を子供へ見せることが子供たちへ教育的好影響を及ぼしたようです．ご自身で選択した道のデメリットをメリットと読み替えながら，研究，教育，大学の管理運営，子育てといったことを続けてこられたそうです．

菅原さんには心理学者としての立場からお話をしていただきました．まず，親の就労をめぐる今日的課題として，育児休業制度の充実は急務であるが，オールマイティではないこと，育児が終わっても子育ては続くため，思春期までの長期的な制度作りが必要なこと，子供の保育時間が長時間に及ぶことへの憂慮があること，子供にとってはコミュニケーションの相手が一番大事な存在になることなどを話されました．また，いわゆる「三歳児神話」は，三歳頃までの初期発達の特殊性と重要性，および「三歳まではもっぱら母の手」でという社会的通説などが理由となっていると考えられるが，どちらも半面の真実，半面の問題性があると述べられました．さらには30～34歳の子育て期の女性の就労率が高い国は出生率も高くなることや，男性の家事時間割合の高い国ほど出生率が高いなどのデーターを示されました．また，母親の就労と子供の発達について，母親の就労の有無のみによる子供の青年期までの知的，言語的，コミュニケーションなどの発達に対して否定的な影響は認められず，家庭内外での養育の良質さ，すなわち応答性のよさや暖か

さ，コミュニケーションの豊富さなどが影響するということを示されました．そして子育てに対しての工夫のポイントとして，時間の確保，職・住・保の接近，子育てに便利な住環境，夫婦の協力，家事の外注利用などのストレスの軽減，サポーター作りなどを挙げられました．最後に，お茶の水女子大での保育所，授乳室などの取り組みを紹介されました．

今回の懇談会は他の研究集会と時間が重なったにもかかわらず，55名（男13名，女42名）の参加があり，予定時間を30分以上オーバーしての盛況な集会となりました．また，終了後も多くの方が会場に残って意見交換などをされていました．さらに，今回は初の試みとして，非学会員の参加者が託児室を利用できる取り組みや参加者が同伴した子供が遊べるスペースも会場内に設けてみました（利用者もいたようです）．

最後になりましたが，懇談会開催のためにお世話下さいましたつくば大会準備委員会，動物学会事務局の皆様にお礼申し上げます．なお，懇談会のアンケート集計結果は号を変えて報告する予定です．

第三回学協会連絡会シンポジウムにおいて本学会ポスターがビジュアル賞

動物学会男女共同参画委員会
藤原宏子（日本女子大）
佐藤　恵（日本大）
中辻孝子（東海大）

2005年10月７日(金)，第３回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが「21世紀の産業を拓く男女共同参画社会」をテーマに，お茶の水女子大学理学部３号館で開催されました．本学会はポスター出展へも参加したところ，ビジュアル賞（ポスター展示は14学協会）をいただきました．３年連続での受賞です．まことに嬉しいことです．

本学会の今年のポスターのテーマは，「毎年続けてきた動物学会女性研究者懇談会」に焦点をあてました．１）懇談会は今年で５回目，学会員の声を反映させて動物学会として取り組むべき課題を探ってきたことをアピールすること．２）懇談会で行ってきたアンケートをまとめることにより，今年の懇談会のテーマ「キャリアの継続－多様なかたち」が目指すように，会員の様々な要望を明らかにすること．この２点を軸に作成にとりかかりました．過去４回の懇談会におけるアンケートの集約作業は佐藤恵委員，ポスターのレイアウトや作成は藤原宏子委員が担当しました．第５回懇談会については，塔筋宏章委員がまとめ作業を行い翌日のポスター展示に加えました．今年のポスターは，いずれ Web 上でご覧いただけるようにいたしまが，学会員の皆様の多様な意見や希望を大切にしている動物学会男女共同参画委員会の姿勢を知っていただけるものと思います．なお，おって第３回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの報告をする予定です．

会員異動

所属支部番号

１.北海道，２.東北，３.関東，４.中部，５.近畿，６.中国・四国，７.九州，８.海外

新入会（11月10日現在）

石山巳喜夫（３；951-8580　新潟市浜浦町1-8　日本歯科大学新潟歯学部解剖学第二講座）

所属変更（11月10日現在）

福井彰雅（３→１；060-0810　札幌市北区北10条西８丁目　北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻生体高分子解析学講座）

㈳日本動物学会関東支部ニュース
(http://wwwsoc.nii.ac.jp/zsj/sibu/kantou/kantou.html)

2006年１月　№105

●2005年度　第58回関東支部大会について

本年度の関東支部大会は，お茶の水女子大学にて行います．詳細は，日本動物学会関東支部第58回大会ホームページに随時掲載いたします．

http://plaza.umin.ac.jp/~gc-ocha/zsk2006/

また，関東支部メーリングリストでもお伝えする予定です．

開催日は３月19日（日）です．今回はポスター発表と口演発表の２本立てです．連名発表者のうちどなたかお一人でも当学会会員であれば発表できます．会員各位のご研究はもちろんのこと，この春に大学・大学院を修了する学生の皆様に，ぜひ卒業研究や修士研究を発表していただきたく存じます．

高校生のポスター発表も受付けています．こちらは当学会員でなくても発表できます．高校生の研究発表には，全グループに奨励賞を，また研究内容ならびにプレゼンテーションが優秀な高校生ポスターには，ベストポスター賞の進呈を企画しています．こちらも奮ってご参加ください．

今回は一般公開企画として「動物学ひろば」を開催します．つくば大会と同様，実験・研究の対象とされている動物を，研究概要とともに紹介していただくものです．できるかぎり実物を展示していただけますようお願いします．

■日時：平成18年３月19日（日）

■プログラム（予定）：

９：00～　　発表受付
９：30～12：00　口演発表
12：00～13：00　総会
13：00～15：00　ポスター発表
15：00～17：30　口演発表
13：00～17：00　動物学ひろば

なお，懇親会は行いません．喫茶コーナーを設けますので，こちらでご歓談ください．

■会場：お茶の水女子大学
共通講義棟１号館（東京都文京区大塚2-1-1）
東京メトロ丸の内線「茗荷谷」徒歩７分・有楽町線「護国寺」徒歩８分

■参加・発表申込締切：平成18年２月19日（日）

支部大会ホームページの大会参加申込・演題登録フォームより，それぞれお申込みください．インターネット環境がご利用になれない方は，下記までご連絡下さい．

■参加費：一般1000円，大学生・院生500円，高校生無料

■大会準備委員会事務局：

〒112-8610　東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学理学部生物学科　根本研究室
日本動物学会関東支部大会準備委員会
FAX：03-5978-5369
E-mail：zsk2006@cc.ocha.ac.jp
TEL：03-5978-5369（根本心一）
03-5978-5579（服田昌之）

「生物科学ニュース」の購読・ご利用のおすすめ

近年の生命科学の進歩はめざましく，新しい分野が次々と開かれ，その結果として新しい学会や雑誌が次々と設立・刊行されると共に，日々各種の会合がめまぐるしく催されております．もはや個々の学会や個人がこれらの情報を処理していける時期ではなくなってきております．

この時代に対処してゆくために「生物科学ニュース」は日本動物学会および日本植物学会の和文情報誌として，会員への情報伝達，広報はもちろん，生物学に関連した学会・国際会議・シンポジウム・講演会・研修会などの開催予定とプログラム，人事・研究助成金などの公募記事，書評，関連分野の動向などを中心に，幅広く生物科学関連ニュースをもりこみ編集・刊行されています．

「生物科学ニュース」は両学会の約5,000名の会員に配布されていますが，会員以外の個人の方あるいは機関でもご購読いただけます．この機会にぜひご購読くださいますようお願い申しあげます．ご送付先，お電話番号など明記のうえ下記あてハガキ，またはファックスなど書面でお申し込みくだされば折り返し請求書をお送り申しあげます．

記

「生物科学ニュース」　月刊（毎月20日発行）／B5 判／毎号平均22頁

編集・発行　生物科学ニュース編集委員会　（日本動物学会・日本植物学会）

年間購読料　3,100円（税込・送料無料）

※　購読料は原則として年間前払いでお願いしております．
※　ご希望の月号からご購読いただけますが，１月号から12月号までの12冊を一期間としますため，途中月からのご購読の場合は初年度のみ月割の購読料となります．以降は購読中止のご連絡をいただかない限り翌年に自動継続し１月号から12月号のサイクルで更新させていただきます．
※　機関購読の場合はご送付先にご担当の個人名をお入れください．
※　お支払いに際し特定の書類がご必要の場合は作成いたしますのでご連絡ください．
※　見本誌ご希望の場合はお送りいたします．
※　すでに購読ご登録の場合はご容赦下さい．

年間購読料　　3,100円（改定された場合は別途ご案内します）

〒113–0033　東京都文京区本郷２－27－２　東真ビル

(社)日本動物学会（TEL　03–3814–5461　FAX　03–3814–6216）

(社)日本植物学会（TEL　03–3814–5675　FAX　03–3814–5352）

関連記事掲載を御希望の方は，「生物科学ニュース」最新号を参照の上，記事を簡潔にまとめ，下記編集局宛にお送り下さい．編集委員会が関連記事と認めた場合には無料で掲載させていただきますが，様式の統一のため記事の手直しを行なうことがあります．なお，編集委員会では記事の要約表現の改訂を独自に行なうことがあります．また学会や研究会が独自の記事を出したい時には，その都度必要なスペース（“ ひろば ”欄）を買い切ることができます．“ ひろば ”の校正は買い切られた方にお願い致します．

○料金：１ページ　(2,000字)　40,000円
　　1/2ページ（1,000字）　20,000円
　　1/4ページ（　500字）　10,000円

○記事送付先：〒113-0033　東京都文京区本郷2-27-2　東真ビル　生物科学ニュース編集局

○原稿をお送り下さる場合，以下の点にご留意下さい．

１）生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合は，生物科学ニュース編集局（bsnews@bsj.or.jp）に，電子メールの本文または添付書類（テキストファイル，マイクロソフトワードまたはアップルワークス書類に限る．ファイル名に拡張子を付ける．）で，Subject に「ニュース原稿」と記入の上，お送り下さい．フロッピーディスクを郵送いただいても結構です．なお，修飾文字や特殊文字をご使用の際は，同時にプリントアウトしたものをファックス（03-3814-6216）にてお送り下さい．図表等のファイルについては，予めご相談下さい．書式等は生物科学ニュース最新号をご参照下さい．

２）現在のところ，書評欄への投稿は受けつけておりません．

３）掲載原稿の締切日（必着）は以下の通りです．

No.411　2006年３月号　2006年１月16日（月）
No.412　2006年４月号　2006年２月13日（月）

生物科学ニュース　No.409　2006年１月　（月　刊）　定価　270円（消費税込）

運営委員会

社団法人　日本動物学会　岡　良隆・久保英夫・大島範子（http://wwwsoc.nii.ac.jp/zsj/）
社団法人　日本植物学会　佐藤典裕・加藤美砂子・園池公毅（http://bsj.or.jp/）

編集委員会

社団法人　日本植物学会　太田尚孝・太田にじ・喜多陽子・澤　進一郎・加藤美砂子（幹事）
社団法人　日本動物学会　赤染康久・小畑秀一・佐藤　恵・服田昌之・久保英夫（幹事）

発　行　(社)日本動物学会・(社)日本植物学会　生物科学ニュース編集委員会　〒113-0033　東京都文京区本郷2-27-2　東真ビル／FAX 03-3814-6216
印　刷　昭和情報プロセス株式会社　〒108-0073　東京都港区三田5-14-3　TEL 03-3452-8451

購読申込：**生物科学ニュース編集委員会**／〒113-0033　東京都文京区本郷2-27-2　東真ビル
FAX 03-3814-6216